一般社団法人成城古典芸能協会第1回公演

2016年9月13日(火)　於　成城学園　澤柳記念講堂

第1部
本学初等学校生徒全員と保護者対象

＜狂言で遊ぼう!＞　演目「蝸牛」
＜能って面白い?＞　演目「土蜘」(半能)

演者
狂言／内藤 連、高野和憲
能／梅若長左衛門 他

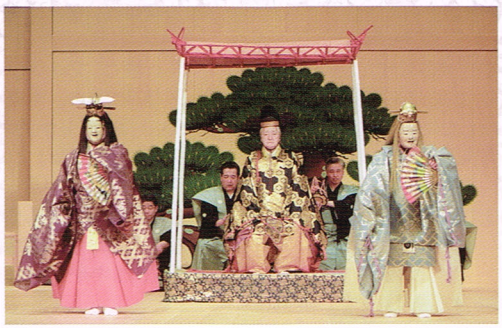
＊第１部は、本学初等学校生徒と保護者の方々のみがご参加いただけます。

第2部
一般対象:有料　　共催：成城大学「成城 学びの森」

開演13時半(開場13時)　　終演16時予定
日本の古典芸能を楽しもう!
～能、長唄、日本舞踊が一堂に会して」
テーマ:『鶴亀』を能、長唄、日本舞踊で演じる

演者
能／シテ:梅若万三郎、観世銕之丞、梅若長左衛門、他邦楽理事のメンバー
長唄／杵家派六世家元杵家弥七他社中
日本舞踊／勝美流二世家元　勝美伊三次

能／左：土蜘　演者/梅若長左衛門師　右：鶴亀


演者/梅若恭行師　（吉越スタジオ撮影）

長唄／操三番叟

一般社団法人成城古典芸能協会設立趣旨

古(いにしえ)から日本独自の伝統の元、培われてきた芸能があります。神への奉仕として発展してきた猿楽、一般庶民の「サの神」への畏れと願いから生まれてきたのであろう田楽。これらの糸が撚り合い、芸術性を以て成立した「能」の世界。この能に楽しみのスパイスを多く振り掛けた「歌舞伎」の世界。そして、歌舞伎から新しい形態へと変化した、「長唄」、「日本舞踊」。
これらは現代に於いて、それぞれに確立された芸術として輝き続けています。これらの芸術を一堂に会したとき一体、何が見えてくるのでしょうか？
成城学園と言う教育の場で自分の軸、自分のこころを培ってきた我々は、それぞれプロの道を歩み、各ジャンルに於いて家元と謂われる年代となり、成城で育ったことへの感謝の気持ちが沸々と湧き、これからの世代へ古典の面白さを通して日本の文化の持つ精神性を伝えたくこの協会を設立します。

一般社団法人成城古典芸能協会理事長　梅若長左衛門

日本舞踊／勝美伊三次師

【お問い合わせ・お申込み】
一般社団法人成城古典芸能協会事務局　担当：高柳
大田区田園調布2-36-10　電話 070-5574-8652
(恐れ入りますが、電話は9時から16時までにお掛け下さい。)
Mail：info@seijo-koten.com

※チケットのお申込み、販売
2016年8月2日(火)9時から右記の方法にて。
前売券 1席：3,000円(全席自由)　当日券 1席：4,000円
＊当日券を若干ご用意いたしますが、全席完売の場合はご容赦いただきますようお願い申し上げます。

お申込みの方法
① HP(ホームページ)よりお申込みになられる方
HPの「申込フォーム」にてお申込みください。
② お電話の方
お名前、ご住所、お電話番号をお伝えください。
③ ①、②の後、ご提示いたしました口座にお一人様3,000円をお振込みください。
恐れ入りますが振込手数料はご負担下さい。
④ 入金確認後、チケットをご指定のご住所に送付いたします。
(チケットの再発行はいたしませんのでご留意下さい。)
⑤お振込口座はお申込み時にお知らせいたします。

ＨＰ：http://www.seijo-koten.com

主催　一般社団法人成城古典芸能協会

演目の概略

蝸牛（かぎゅう）「デンデンムシ」、「かたつむり」のこと。

【ストーリー】
羽黒山の山伏が一人、修行の帰りに眠くなり、藪の中で寝てしまいます。
一方、御祖父さんに長寿の薬として効能があるとされる「蝸牛」を贈ろうとした主人が太郎冠者（たろうかじゃ）に山に入って蝸牛を採ってくるよう命じます。
命令を受けた太郎冠者だが、実は「蝸牛」とは何なのかを知らないのです。
いろいろと主人から、蝸牛について説明を受けたのだが…。
さて、藪に来た太郎冠者は、山伏に出会い、あろうことか、藪で寝ていた山伏をてっきり蝸牛と間違えてしまいました。
山伏は、法螺貝（ほらがい）や角のような篠懸（すずかけ）をさも蝸牛のような動きでみせて、太郎冠者をからかいます。
主人の所へ一緒に行って欲しいのなら、囃子ながら行こうと、二人で浮かれて戯れています。
そこへ、主人がやってきまして…。

【見どころ】
荒唐無稽、あり得ないストーリーの面白さ。人間をかたつむりに間違えるとは。最初は形、理屈で山伏とかたつむりを比較する面白さと後段の身体全体で笑える面白さ。どんな結末なのか…。
見てのお楽しみ!!

土蜘（つちぐも）

【ストーリー】
病気で寝ている源頼光（みなもとのらいこう）のところへ、召使いの胡蝶（こちょう）が、薬を持ってきます。ところが頼光の病気は益々重くなっている様子です。
胡蝶が退出し、夜も更けた頃、頼光の病室に見たこともないお坊さんが現れ、病状はどうか、とききます。不審に思った頼光がお坊さんに名前を聞くと、「わが背子（せこ）が来（く）べき宵なりささがにの」と『古今集』の歌を口ずさみつつ近付いてくるのです。よく見ると、その姿は蜘蛛の化け物でした。あっという間もなく千筋（ちすじ）の糸を繰り出し、頼光をがんじがらめにしようとするのを、頼光は、枕元にあった源家相伝の名刀、膝丸（ひざまる）を抜き払い、斬りつけました。すると、お坊さんはたちまち姿を消してしまいました。
騒ぎを聞きつけた頼光の家来、独武者（ひとりむしゃ）は、大勢の部下を従えて駆けつけます。頼光は何があったかを語り、名刀膝丸を「蜘蛛切（くもきり）」に改めると告げ、蜘蛛の化け物に斬りつけはしたが、命をとるに至らなかったので、その蜘蛛の化け物を探し出し、成敗するよう、独武者に命じます。
独武者が土蜘蛛の血をたどっていくと、化け物の巣と思われる古い塚が現れました。これを突き崩すと、その中から土蜘蛛の精が現れます。土蜘蛛は千筋の糸を投げかけて独武者たちをてこずらせますが、大勢で取り囲み、ついに土蜘蛛を退治します。

【見どころ】
土蜘が頼光の家来と戦うとき、蜘蛛が糸を吐くように、演者が手に丸め持っていた糸を投げます。今回は何本の糸を撒きますか？　数えてみてください。きっと、お楽しみになれるのではないでしょうか。

鶴亀

【ストーリー】
新年を迎えた皇帝の宮殿でお正月の行事が執り行われます。皇帝に仕える官人が登場し、皇帝が月宮殿にお越しになるので、殿上人は皆参上するように、と触れ回ります。皇帝が不老門に現れて初春の日の輝きをご覧になると、万民が天に響く祝賀の声を上げます。宮殿の庭は金銀珠玉に満ちて美しいことこの上ない様子。こうしたなか、大臣が進み出て例年のように鶴亀に舞をさせ、その後、月宮殿で舞楽をなさいませ、と皇帝に奏上します。鶴と亀が舞って皇帝の長寿を祝うと、皇帝も喜び、みずから立って舞います。さらに殿上人たちが舞って祝賀の場を盛り上げた後、皇帝は国土繁栄を喜び、御輿に乗って長生殿へ還ります。

【見どころ】
謡曲としては大変短く、謡曲初心者が最初に稽古する曲によく選ばれます。流儀によっては弱吟、強吟、問答の言葉などをバランスよく含み、節回しもシンプルながらバラエティに富んでいますので、とっつきやすいだけではなく、面白さもあります。
ただし、能としては皇帝がシテになり、楽も入りますから、決して軽々しい曲ではなく、むしろ難曲であり、時間もそれなりにかかります。
鶴と亀の役を子方が勤めることも多く、その際のかわいらしい舞も見どころのひとつ。皇帝の荘重な「楽」との対比が興を盛り上げます。
初心者にもなじみがあって、謡もわかりやすく、おめでたい曲柄でもあり、多くの人がストレートに楽しめる曲でしょう。
この曲を長唄、日本舞踊で表現すると、能の舞台と較べ、どのようなイメージの違う舞台となりますか？　お楽しみください。

<当協会演者プロフィール>

梅若長左衛門師

（一般社団法人成城古典芸能協会理事長）

重要無形文化財総合指定保持者。
現在までに200番以上のシテを務める。能楽師としてだけでなく各種公演のプロデューサとしても活動している。2002年新宿NSビル20周年記念イベント　能・狂言「和の伝承」は、9日間のイベントで2万人の来場者数を迎え、能楽を様々なテーマで取り上げ、企画・総合監修としても高く評価された。
観世流シテ方　(社)能楽協会会員　/日本芸術院会員二世梅若　実の孫/財団法人梅若会理事
成城大学にて民俗学を専攻（日本における仮面成立の研究に取り組む）

杵家弥七師

（一般社団法人成城古典芸能協会理事）

長唄杵家派六世家元　杵家会会長
(社)長唄協会常任理事　普及育成委員長　法規審議副部長　内部交流委員
キッズ伝統芸能体験プログラム委員長/(協)日本の文化を考える会「季座」代表理事
四世家元杵家弥七創始の三味線文化譜を用いた三味線音楽の普及発展を第一義とする杵家会の会長として、そのための組織づくりに努め、日本全国およびアメリカに六支部六十支所を有する組織に育て上げた。
現在は、初・中等教育への古典芸術の振興を図り、各地の学校で鑑賞、体験教室を開催している。また、他ジャンルの古典芸術との提携交流を数多く行い、伝統芸術の普及発展に努めている。成城大学文芸学部卒。

観世銕之丞師

（一般社団法人成城古典芸能協会理事）

重要無形文化財総合指定保持者。
銕之丞家の当主として、また銕仙会の新棟梁としてこれからの能界を担う存在として期待されている。力強さと繊細さを兼ね備えた謡と演技には定評がある。東京および京都、大阪でも活躍するほか、海外公演にも多く参加している。
社団法人銕仙会理事長。/京都造形芸術大学評議員。都立国際高校非常勤講師。
京舞井上流五世井上八千代との間に一男一女をもうける。
成城学園卒。

勝美伊三次師

（一般社団法人成城古典芸能協会理事）

勝美流二世家元。
十代目坂東三津五郎丈の許しを得、勝美流家元を平成二十二年に継承し、国立津大劇場での継承披露舞踊会にて、宗家・十代目坂東三津五郎丈の特別出演によるお相手にて「吉野山」の忠信を演じる。
成城大学文芸学部卒。